

食品栄養学科

2023 年度 研究活動報告

- ① 栄養機能学研究室
- ② 栄養教育学研究室
- ③ 給食経営管理学的研究室
- ④ 公衆栄養学研究室
- ⑤ 食品化学研究室
- ⑥ 生体機能学研究室
- ⑦ 病態栄養学研究室
- ⑧ 臨床栄養学研究室
- ⑨ 助手

1) 令和5年度活動報告

① がん細胞で高発現する因子には様々なものがあるが、その中で遺伝子発現の制御において重要な働きを持つ因子に TREX 複合体と AREX 複合体がある。今回、これら複合体の構成成分の解析を行い、それぞれの構成成分の中心となる因子の構造解析と比較を行った。

② 機能性食材による生活習慣改善効果の検証

1) やせ女性モデルラットから出生した出生した仔ラットならびに高血圧モデルラットの糖代謝異常ならびに血管障害に対する魚類由来エラスチンペプチドの保護作用、

2) 亜臨界水処理による柿果実由来ポリフェノールの低分子化とその生理活性の分析

2) 主要な研究・教育業績 (著書、総説、原著論文、その他著作、特許等知的財産、招待講演、学会発表、講演会その他発表で当てはまるものを記載する)

「原著論文」

1) 秋山裕義, 関沢裕子, 大槻祐規, 宮村佳成, 森本正則, 松村晋一, 吉岡百合, 山中重明, 藤咲淳, 竹森久美子, 米谷 俊. 柿果実由来ポリフェノールの酒酔い軽減作用について *薬理と治療* **51(7)** 1001-1011 (2023).

2) Ken-ichi Fujita, Misa Ito, Midori Irie, Kotaro Harada, Naoko Fujiwara, Yuya Ikeda, Hanae Yoshioka, Tomohiro Yamazaki, Masaki Kojima, Bunzo Mikami, Akira Mayeda, Seiji Masuda, Structural differences between the closely related RNA helicases, UAP56 and URH49 fashions distinct functional apo-complexes *Nature communications* **15(1)** 455 (2024)

3) Ken-ichi Fujita, Tomohiro Yamazaki, Akira Mayeda, Seiji Masuda. Terminal regions of UAP56 and URH49 are required for their distinct complex formation functioning to an essential role in mRNA processing and export. *Biochemical and Biophysical Research Communications* **703** 149682 (2024)

「その他著作」

1) Takemori K, Aoki K, Matsuo T, Taguchi T, Kometani T. Effects on Development and Metabolism of offspring Born from Japanese Underweight Model Dams. *Journal of Clinical Nutrition & Dietetics* **9(3;186)** 1-2 (2023).

2) 上西 梢, 村上哲男, 竹森久美子. 生活習慣病モデルとしての SHRSP の新たな有用性 日本人の体質を再現したモデル動物への食餌制限のタイミングと病態発症との関連 *SHR News Letter* **73** 2023 年

3) 堀 史人, 鶴飼生望, 増田 誠司, 食品成分による mRNA スプライシング制御 細胞, **55**, 926-929 (2023)

4) 鶴飼 生望, 堀 史人, 増田 誠司, mRNA スプライシングを調節する食品とその機能性成分 *アグリバイオ*, **8**, 54-59 (2024)

「招待講演」

- 1) 竹森久美子. 食生活で変わる子どもの未来. 学会創立 100 周年記念 日本農芸化学会 中四国支部第 67 回講演会 (例会) . 米子市 他 1 件
- 2) 増田誠司 食品成分による mRNA スプライシングの調節
日本農芸化学会中部支部例会 津市 他 1 件

「学会発表」

- 1) 中村 優希, 増田 誠司, 竹森 久美子. 魚類由来エラスチンペプチドの継続摂取は高血圧性腎障害を抑制する 日本農芸化学会 2024 年度大会 (東京: 日本農芸化学会創立 100 周年記念大会) . 東京都 以上を含めて 13 件

3) 研究資金獲得状況 (公的資金、受託・寄附研究、その他に分けて記載する)

「公的資金」

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「魚類由来エラスチンペプチドの血管保護作用を介した生活習慣病抑制効果」 (令和 4 年度~6 年度) 143 万円 (R5) (代表・竹森久美子)
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「ヒトにおける核内 mRNA 輸送経路の多様化とその生理的意義の解明」 (令和 4 年度~6 年度) 1340 万円 (R5) (代表・増田誠司)
- 3) 科学研究費補助金 挑戦的研究萌芽「スプライシング阻害活性をモデルとした食品化合物の迅速探索・評価方の開発と応用展開」 (令和 3 年度~5 年度) 500 万円 (R5) (代表・増田誠司)
他 2 件

4) 各種委員会委員などの兼務業務 (学外の公的な委員)

- 奈良県産業振興総合センター研究開発評価委員会委員 他 3 件 (竹森久美子)
国立研究開発法人科学技術振興機構外部委員 他 3 件 (増田誠司)

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

- 増田誠司: 「mRNA バルク輸送体、がん早期発見へ」、2024. 1. 22 (月) 日刊工業新聞 p23 (科学技術・大学欄)

6) その他

- 1) 第 62 回日本栄養・食糧学会 近畿支部大会 実行委員 (2023) (増田誠司・竹森久美子)
- 3) 第 21 回日本小児栄養研究会 実行委員 (2024) (増田誠司)
- 4) 第 21 回日本小児栄養研究会 会長 (2024) (竹森久美子)

(2 ページ程度で作成してください)

1) 令和5年度活動報告

- ① 思春期を対象とした栄養教育：附属高等学校の1年生を対象とした栄養教育プログラムの検討
- ② 小学生4・6年生を対象とした食事摂取状況と咀嚼力・体組成等との関連性の縦断研究
- ③ 近畿大学附属幼稚園3歳～5歳児における食に関する興味・関心の向上を目指した食育実践
- ④ 低アミロース小麦の構造特性の検討及び澱粉性食品などを対象とした調理科学・食品化学的研究
- ⑤ 大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業：“オール近大”川俣町発・復興人材育成プロジェクトとして、地元の食材や製品の普及・町の活性化のための新商品開発提案・商品化、および観光農園における事業展開手法の提案
- ⑥ 災害時における要配慮者に対する健康リスク低減のための保温調理法の検討；災害時における保温パッククッキングの有用性の検討—腎機能障害者(慢性腎臓病)を対象として
- ⑦ 大学生・高校生アスリートに対する栄養サポートプログラムの開発；
 - ・女大学女子柔道選手に対する自炊頻度と自炊イメージ向上を目指した栄養サポートプログラムの検討
 - ・高校生ラグビー選手に対する集団栄養教育が体組成や食意識に与える影響
- ⑧ 通所介護（デイサービス）におけるコロナ禍での料理活動の実施状況および支援方法の調査に関する研究

2) 主要な研究・教育業績

「招待講演」

明神千穂

- ① 大和郡山市「認知症のケアと予防に役立つ料理療法，大和郡山市保健センター，2023, 04, 25
- ② 香芝ボーイズ少年硬式野球協会；保護者研修会「スポーツ選手の栄養学について」2022. 06. 15.
- ③ 日本栄養・食糧学近畿支部；「ヒトを対象とした試験をしたいとき」日本栄養・食糧学近畿支部第14回栄養学を志す若手のためのフォーラム（オンライン）2023, 11, 19
- ④ 吹田野球ひじ検診の会，ジュニアアスリートに必要なスポーツ栄養の知識と実践，吹田市民病院，2023,11,24

「学会発表」

- ① 牧田有美香，土江友梨奈，野口歩乃佳，中井菜奈，石川睦子，川西正子，幼児への体験的な食農教育プログラムの検討，日本家政学会関西支部大45回研究発表会（近畿大学・奈良），2023, 10, 14.

- ② 郡俊之、川西正子、明神千穂、他4名、女子中学生における食習慣と睡眠が体型・排便に及ぼす影響、第78回日本栄養・食糧学会大会（中村学園大学・福岡）2024, 5, 26.
- ③ 岡本希、郡俊之、明神千穂、川西正子、学童期における咀嚼習慣と終末糖化産物 AGEs と肥満との関連、第32回日本健康教育学会学術大会（長野県立大学・長野）, 2024, 7, 7.
- ④ 明神千穂、中野なつみ、湯川夏子、お菓子作りの価値的意義について、日本家政学会関西支部大45回研究発表会（近畿大学・奈良）, 2023, 10, 14.
- ⑤ 明神千穂、後藤弘輝、柴稜、岡林優里、濱田希、尾島朋子、大学生女子柔道選手に対する調理技術および調理知識の向上を目指した栄養サポートプログラムの開発調理科学会近畿支部第49回研究発表会（滋賀）
- ⑥ 澤口優梨、清水誠子、山本真子、郡俊之、川西正子、明神千穂、災害時を想定した腎疾患向けバッククッキング〜カリウム低減法の検討〜、第40回兵庫県栄養改善研究発表会（神戸）, 2023, 12, 2.

3) 研究資金獲得状況

「公的資金」

明神千穂

- ① 科学研究費：「食物の硬さ」学童期の発育・発達に及ぼす影響を検証するための縦断研究：200千円
- ② 科学研究費：災害時における要配慮者に対する健康リスク低減のための保温調理法の確立：416千円
- ③ 科学研究費：地域における軽度認知症高齢者に対する料理療法プログラムの開発と効果検証：480千円
- ④ 共同研究費：株式会社サンデリカ；主に体力を使う仕事に従事している方への新商品開発のための共同研究：400千円
- ⑤ 大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業：“オール近大”川俣町発・復興人材育成プロジェクト：約3,000千円（近畿大学全体で17,000千円）

4) 各種委員会委員などの兼務業務（学外の公的な委員）

- ・ 関西広域連合調理師試験委員会委員・製菓衛生師試験委員会委員（川西）
- ・ 日本応用糖質科学会理事、評議員、編集委員、総務委員、近畿支部幹事（川西）
- ・ 奈良県栄養士会理事、奈良県栄養士会奈良市支部長（明神）
- ・ 奈良市食育推進会委員（明神）
- ・ 日本家政学会関西支部奈良地区役員（明神）
- ・ 日本調理科学会近畿支部役員（明神）
- ・ 日本栄養改善学会近畿支部評議員（明神）
- ・ 日本冷凍空調学会近畿地区運営委員（明神）

1) 令和5年度活動報告

食卓の色彩心理研究

Food marketing & Management 研究

食育調査・食育介入・発達心理研究

おからのメニュー開発

視覚障害者の快適な食生活に関する研究

2) 主要な研究・教育業績

「その他著作」

- (1) 竹内美貴, 内田賢子, 富田圭子, 食物と健康, レッツトライクッキング1・2・3, 「いろいろな芋で作った料理を食べて暑い夏を乗り切りましょう!」, 行吉学園出版局, 177, 14-20, 2023年7月
- (2) 細見和子, 横井亮子, 富田圭子, 食物と健康, レッツトライクッキング1・2・3, 「世界のパン・お菓子教室—フランス—」, 行吉学園出版局, 178, 14-20, 2023年12月

「学会発表」

- (1) コーヒーカップの色が消費者の心理に及ぼす影響～ペール・ライト・ビビッド・デュープ・ダークトーンおよび無彩色の場合～, 富田圭子, 百瀬 仁, 篠田理恵, 内田 和, 河浦萌海, 田中里枝, 橋本京佳, 安岡美穂, 日本色彩学会第54回全国大会, 2023年6月24日
- (2) 皿のリムの色が料理の美味しさおよび量感に及ぼす影響, 太田くみ, 岩脇有咲, 谷明璃, 溝口梨里, 武田莉奈, 御子智美, 石川明音, 富田圭子, 日本家政学会関西支部第45回研究発表会, 2023年10月14日
- (3) 料理作りを媒介とした幼児における自尊感情向上プログラムの開発と検証, 富田圭子, 松田久美, 北村良子, 大石朝子, 2023年度日本調理科学会近畿支部研究発表会, 2023年12月3日

「講演会」

- (1) 「幼児期における自己肯定感・自尊感情の育成と「料理作り」の有用性」, 奈良歴史芸術文化村保護者講演会, 2023年6月18日
- (2) 「食事をよりおいしく楽しく味わうために、「色」が果たす役割とは」, 横浜市戸塚区給食施設栄養管理研修会, 2024年1月30日
- (3) 「子どもたちに伝えたい和食」, 高齢者大学校, 2023年10月24日
- (3) 「季節の彩りを愛でる和食」, 高齢者大学校, 2023年10月10日

3) 研究資金獲得状況

「受託・共同研究」

- (1) 研究課題名：なら歴史芸術文化村幼児向けプログラムと連動した食育プログラム事業
依 頼 者：奈良県 文化・教育・くらし創造部
研 究 費：2,000,000 円
- (2) 研究課題名：おからを用いた新規メニューの開発
依 頼 者：株式会社カワニシ
研 究 費：275,000 円

4) 各種委員会委員などの兼務業務（学外の公的な委員）

日本色彩学会副編集委員長（富田圭子）
日本色彩学会関西支部役員（富田圭子）
日本調理科学会近畿支部副支部長（富田圭子）
日本調理科学会近畿支部常任委員（富田圭子）
日本調理科学会近畿支部高齢と食分科会世話人（富田圭子）
日本栄養改善学会評議員（富田圭子）
日本栄養改善学会近畿支部役員（富田圭子）
日本家政学会関西支部役員（富田圭子）
日本食生活学会評議員（富田圭子）
日本色彩学会第 55 回全国大会実行委員（富田圭子）
日本家政学会関西支部第 45 回研究発表会大会会長（富田圭子）
日本栄養・食糧学会第 62 回近畿支部大会実行委員（富田圭子）
公益財団法人 マルホ・高木皮膚科学振興財団理事（富田圭子）
奈良市学童保育昼食提供事業選定委員（富田圭子）

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

- なら歴史技術文化村と近畿大学農学部 幼児向け食育プログラムに関する新聞掲載
- (1) 「子どもら楽しく食を学ぶ 近大農学部生ら料理教室」、読売新聞 p. 31（地域）、2023 年 7 月 3 日（月）朝刊
- (2) 「団子こねこね一人で出来た 料理教室 子どもだけで完成めざす」、p. 19（奈良）、2023 年 9 月 4 日（月）朝刊
- なら歴史技術文化村と近畿大学農学部 幼児向け食育プログラムに関するテレビ出演等
- (1) 「ならフライデー 9」奈良テレビ放送、2023 年 8 月 11 日（金）20:57～21:57 番組内で放映

1) 令和元 5 年度活動報告

1. 魚油のオメガ 3 脂肪酸が不整脈予防効果を示す分子機序の解明
2. 母子保健への取り組み—みかんの皮に含まれるヘスペリジンの免疫機能向上効果の検討— (妊娠動物を用いた実験)
3. 温熱環境下における筋クランプ誘発モデルマウスの作出と栄養素による予防効果の検討
4. 個食・孤食環境における外的要因 (音、画像、動画等) が喫食者の安心感に及ぼす影響 —心臓自律神経活動評価による観察研究—
5. 「近大ふりかけ」の開発 ～“オール近大” コロナ対策支援プロジェクト・規格外食材を利用した食環境整備～
6. 食品ロス削減に向けた食品廃棄部位活用による健康レシピ考案
7. 大学生の朝食欠食率と野菜摂取量の改善に向けた研究 —食への実態調査と意識についての調査—
8. 若い女性をターゲットとした簡単で健康増進につながる新商品の開発 (食品企業との受託研究)

2) 主要な研究・教育業績 (著書、総説、原著論文、その他著作、特許等知的財産、招待講演、学会発表、講演会その他発表で当てはまるものを記載する)

「原著論文」

1. Morishima M, Wang P, Horii K, Horikawa K, Ono K. Eicosapentaenoic Acid Rescues Cav1.2-L-Type Ca^{2+} Channel Decline Caused by Saturated Fatty Acids via Both Free Fatty Acid Receptor 4-Dependent and -Independent Pathways in Cardiomyocytes. *Int J Mol Sci*, 25 (14), 7570, 2024.
2. 孤食環境への音楽刺激が自律神経活動に及ぼす影響 —心拍変動解析による客観的評価—
—古川菜月、松井夕佳、川口愛未、堀井鴻佑、小野克重、森島真幸. 日本病態生理学会雑誌 2024 (*in press*).

「招待講演」

1. 森島真幸. 子どもの食事と発達との関係性. 奈良県 1 歳 6 ヶ月健康診査従事者研究会 (生駒市)
2. Masaki Morishima, Utilization of non-standard products and development of health promotion. Furikake: Healthy Savory Sprinkles, ロサンゼルス国際基金 (オンラインによる講演)

「以上を含めて他 2 件」

「学会発表」

1. Masaki Morishima, Effects of omega-3 polyunsaturated fatty acids on cardiac rhythm, electrical

excitability, and Ca²⁺ signaling. 第 101 回日本生理学会大会シンポジウム (北九州市)

2. 鈴木巴乃, ZHU MOHAN, 堀井鴻佑, 森島真幸. 妊娠前からの α -glucosylhesperidin の摂取が出生仔マウスの免疫調節や情動的ストレス応答に及ぼす影響. 第 33 回日本病態生理学会大会 (那覇市)

3. 有本明寿香, 井通美祈, 堀井鴻佑, 森島真幸. 温熱環境下における筋クランプ誘発モデルマウスの作出と栄養素による予防法の検討. 第 33 回日本病態生理学会大会 (那覇市)

4. 堀井鴻佑, 小野克重, 増田誠司, 森島真幸. エイコサペンタエン酸は食餌誘発性肥満モデルマウスの心房細動発症を予防する. 第 33 回日本病態生理学会大会 (那覇市)

5. 森島真幸, 浅見結子, 猪谷高育. 高グルコース負荷による心筋細胞傷害に対するイチゴ葉抽出液の予防効果. 第 33 回日本病態生理学会大会 (那覇市)

「以上を含めて他 7 件」

3) 研究資金獲得状況 (公的資金、受託・寄附研究、その他に分けて記載する)

「公的資金」

1. 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「多価不飽和脂肪酸の心筋保護作用の証明とその分子機序の解明」(令和 4 年度から令和 7 年度) 416 万円

「受託・寄附研究」

1. 受託研究費として 2 件, 計 35 万円

4) 各種委員会委員などの兼務業務 (学外の公的な委員)

日本病態生理学会理事 (森島)、日本病態生理学会活性会員 (森島)、日本不整脈心電学会評議員 (森島)、日本生理学会評議員 (森島)、日本生理学会男女共同参画推進委員 (森島)、日本生理学会女性研究者の会編集委員、学術雑誌 Membranes Academic Editor (森島)

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

1. 日刊工業新聞 (森島真幸)

(2 ページ程度で作成してください)

食品化学研究室 教授 近藤 高史

1) 令和5年度活動報告

味覚相互作用に関する以下の研究を行った

- ① NaCl の甘味増強作用
- ② NaCl とうま味の味覚相互作用
- ③ NaCl と酸味／苦味の味覚相互作用
- ④ ヒスチジンの味覚変調作用
- ⑤ 餅と市販飲料との組合せによる苦味発生機構

2) 主要な研究・教育業績

「原著論文」

田中伽奈、桂川晴花、**近藤高史**：NaCl 添加によるうま味の増強効果の定量的解析
日本味と匂学会誌 31(1)：33-40 (2024).

「学会発表（シンポジウム講演）」

- ① **近藤高史**：だしと情動：食を通じた支援の可能性、第12回日本情動学会大会、一般公開シンポジウム2「不登校の情動的支援」、2023年11月18-19日、京都。
- ② **Takashi Kondoh**：Turning of umami research: shift from defense (safety) to offense (physiological significance). The 20th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (ISMNTOP2023), November 25-26, 2023, Okayama, Japan.

「学会発表（一般演題）」

- ① 田中伽奈、桂川晴花、**近藤高史**：うま味に対する塩の増加作用
日本農芸化学会関西支部第525回講演会、2023年5月27日、京都。
- ② 田中伽奈、桂川晴花、**近藤高史**：各種塩添加によるうま味増加作用
日本食品科学工学会第70回記念大会、2023年8月24-27日、京都。
- ③ 田中伽奈、桂川晴花、**近藤高史**：NaCl 添加によるうま味の増強
日本味と匂学会第57回大会、2023年9月11-13日、東京。
- ④ **近藤高史**、天野莉那、武藤悠作：市販飲料の口中調味による餅の味覚変調作用
日本味と匂学会第57回大会、2023年9月11-13日、東京。
- ⑤ Kana Tanaka, Haruka Katsuragawa, **Takashi Kondoh**：Enhancement of umami taste by Na ion in humans. The 20th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (ISMNTOP2023), November 25-26, 2023, Okayama.
- ⑥ **Takashi Kondoh**, Yui Katsumata, Kyoka Yoshitake：Enhancement of sweet

taste by NaCl in humans. The 20th International Symposium on Molecular and Neural Mechanisms of Taste and Olfactory Perception (ISMNTOP2023), November 25-26, 2023, Okayama.

- ⑦ 田中伽奈、桂川晴花、**近藤高史**：NaCl のうま味増強作用
食欲・食嗜好を形成する感覚・内分泌・神経基盤研究会、2023年12月16-17日、岡崎。
- ⑧ **近藤高史**、天野莉奈、武藤悠作：市販飲料との組合せによる餅の苦味発生メカニズム、食欲・食嗜好を形成する感覚・内分泌・神経基盤研究会、2022年12月15-16日、岡崎。
- ⑨ 田中伽奈、桂川晴花、**近藤高史**：さまざまな塩添加によるうま味の増加
日本農芸化学会 2024年度大会（創立100周年記念大会）、2024年3月24-27日、東京。
- ⑩ **近藤高史**、勝亦佑衣、吉武杏花：ヒト甘味のNaCl添加による増加作用
日本農芸化学会 2024年度大会（創立100周年記念大会）、2024年3月24-27日、東京。

「その他」

投稿論文の査読：“Current Pharmaceutical Biotechnology”誌。

3) 研究資金獲得状況

ソルト・サイエンス研究財団 2023年度研究助成、「塩による甘味増強作用の検証」、80万円、助成研究者：近藤高史、研究期間：2023年4月1日～2024年3月31日。

4) 各種委員会委員などの兼務業務（学外の公的な委員）

- ① 日本食品・機械研究会 理事
- ② 日本味と匂学会 評議員
- ③ 日本情動学会 評議員
- ④ Frontiers in Behavioral Neuroscience, Associate Editor

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

なし

生体機能学研究室 教授 佐久間 圭一郎

(1) 令和5年度活動報告

前年度に起案した遺伝子組換え実験の申請書が令和5年7月24日付で承認されたことにより、研究活動に必要な環境整備(研究室のセットアップ)が大きく進展した。

当研究室が掲げる「がんの転移メカニズムの解明」「がんの新規治療標的分子の同定」という目標の元、令和5年度は以下の3つの研究課題に取り組んだ。

- ①新規同定大腸がん転移抑制候補遺伝子 *USP6NL* の機能解明
- ②p120-カテニンアイソフォーム 3A による大腸がん細胞の転移促進メカニズムの解明
- ③肺腺がん細胞における一次線毛ならびにその発現制御分子 *KATNAL2* の機能解明

②の研究課題は令和5年度の科研費(基盤研究C)に新規採択された。いずれの研究課題も一定の進捗を得たが、論文投稿に至るにはさらなるデータの蓄積が必要である。②の研究課題については令和6年度に日本癌学会に演題登録する予定である。

(2) 主要な研究・教育業績

無し

(3) 研究資金獲得状況

1. 令和5～7年度 科研費(基盤研究C)

大腸がん転移における p120-カテニンのアイソフォーム変換の意義の解明
(研究代表者)

(4) 各種委員会委員などの兼務業務(学外の公的な委員)

無し

(5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

無し

病態栄養学研究室 教授 伊藤龍生

(本文はMS 明朝もしくは Times New Roman 10.5 ポイント)

1) 令和5年度活動報告

潰瘍性大腸炎及びアトピー性皮膚炎の栄養に関する研究
トリプルネガティブ乳がんに対する脂肪酸の抗腫瘍効果
栄養による生活習慣病発症抑制効果に関する研究

2) 主要な研究・教育業績 (著書、総説、原著論文、その他著作、特許等知的財産、招待講演、学会発表、講演会その他発表で当てはまるものを記載する)

「著書」

1) なし

「原著論文」

1) フナズシ由来の乳酸菌摂取によるアトピー性皮膚炎の改善効果の検討, 日本臨床腸内微生物学会誌, **25**, 56-63, 2023

1) Oral administration of apple pectin solution improves atopic dermatitis in a mouse model, J Nut Sci Vita, **70**, 9-18, 2024

「学会発表」

- 1) リンゴペクチン投与によるアトピー性皮膚炎の組織学的解析と腸内細菌叢組成の変化に関する検討、第26回 日本臨床腸内微生物学会総会・学術集会・神奈川県、横浜市、藤崎明日香、立石里佳、志岐幸祐、水口信行、佐藤隆夫、伊藤龍生
- 2) トリプルネガティブ癌に対する脂肪酸の抗腫瘍効果の検討、第63回 日本栄養・食糧学会近畿支部大会・奈良県、奈良市、河合晶帆、山田美侑、立花楓香、伊藤龍生
- 3) マウスアトピー性皮膚炎モデルに対する梅の仁による発症予防及び改善効果の検討、第64回 日本栄養・食糧学会近畿支部大会・奈良県、奈良市、立花楓香、河合晶帆、伊藤龍生

3) 研究資金獲得状況 (公的資金、受託・寄附研究、その他に分けて記載する)

「公的資金」

1) なし

2) 科学研究費補助金 基盤研究(C)「EGCGによる脳外傷後の高齢者高次脳機能障害発症抑制関連因子発現に関する研究」(令和3年度～7年度) 430万円

「受託・寄附研究」

- 1) 1) 受託研究費として2件, 計285万円

- 4) 各種委員会委員などの兼務業務 (学外の公的な委員)
 - ・日本病理学会評議委員 (伊藤龍生)、BioMed Research International 編集委員 (伊藤龍生)

- 5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等
なし

(2ページ程度で作成してください)

臨床栄養学研究室 准教授 木戸慎介

(本文は MS 明朝もしくは Times New Roman 10.5 ポイント)

1) 令和 5 年度活動報告

- ・近畿大学奈良病院における「食事満足度向上」に向けた介入研究
- ・がん患者を対象とした摂食嚥下支援プログラム（近大オリジナル嚥下食）の開発
- ・介護支援調理器具（デリソフター、過熱水蒸気調理器）の調理特性に関する研究
- ・食後高血糖の改善を目的とした新たな食事形態の開発とその臨床応用
- ・食事性リン管理の実現に向けた新たな CKD 食事療法の開発とその応用
- ・CKD 患者向け食事療法の新規開発：ビッグデータを活用した新たな栄養学的アプローチ
- ・食品機能性成分の実用化（商品化）に向けた機能性評価（ヒトでの検討）

2) 主要な研究・教育業績（著書、総説、原著論文、その他著作、特許等知的財産、招待講演、学会発表、講演会その他発表で当てはまるものを記載する）

「著書」

- 1) 竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・坂上浩 編、新・臨床栄養学(栄養科学シリーズ NEXT)、分担執筆(13.筋・骨格系疾患)、講談社サイエンティフィック、ISBN:9784061553842、2023
- 2) 塚原丘美・木戸慎介 編、臨床栄養学実習 第 3 版(栄養科学シリーズ NEXT)、ISBN:97840675301920、2023

「原著論文」

- 1) Uenishi K, Kawasaki N, Iseki H, Nogata M, Kawabata Y and Kido .S. Effect of a plant protein rich diet on postprandial phosphate metabolism in healthy adult men: a randomized controlled trial. J Human Nut and Dietetics, 37(3) 762-771, 2024

「学会発表」

- 1) 木戸慎介、川本萌、小倉明奈、森立夏、安西正弘、村瀬浩、財満信宏、森山達哉、「黒大豆種皮抽出液が有する血管柔軟性の維持に関する有効性の検証」、第 78 回日本栄養・食糧学会大会、2024 年 5 月 24-26 日、福岡
- 2) 木戸慎介、「医食農連携を基盤とした with コロナの地域戦略～地域支援型農業（CSA）を導入した「医」と「農」を支える多様な連携軸の構築～」、2023 年度公益社団法人滋賀県栄養士会研究教育事業部総会（招待講演）、2024 年 2 月 18 日、彦根
- 3) 藤本美香、山下和子、村上華子、渡辺紗弥佳、藤原克美、木戸慎介、富田圭子、多賀敦、安井梨紗、村田積美、市川勝義、東田有智、「大学生と「官・産・学」で健康教育を目指す食育イベントについて」、第 27 回日本病態栄養学会年次学術総会、2024 年 1 月 26 日、京都
- 4) 水本千夏、神岡実祐、青柳美咲、房晴美、水野時枝、向奥裕基、北村光、木戸慎介、「家庭用調理ケア家電の調理特性について」第 22 回日本栄養改善学会近畿支部学術総会、2023

年 12 月 9 日、奈良

3) 研究資金獲得状況 (公的資金、受託・寄附研究、その他に分けて記載する)

「公的資金」

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C)「慢性腎臓病患者を対象とした栄養補助食品 (低リン食品) の新規開発に向けた基礎的研究」(令和 5 年度～7 年度) 390 万円

「受託・寄附研究」

- 1) 受託研究費として 1 件、計 9 0 万円
- 2) 共同研究として 1 件、5 0 万円

4) 各種委員会委員などの兼務業務 (学外の公的な委員)

- ・ 特定非営利活動法人日本栄養改善学会 理事 (財務担当)
- ・ 特定非営利活動法人日本栄養改善学会 評議員
- ・ 特定非営利活動法人日本栄養改善学会近畿支部会 庶務幹事
- ・ 特定非営利活動法人日本栄養改善学会近畿支部会 評議員
- ・ 公益社団法人日本栄養・食糧学会 参与

5) 新聞・雑誌等記事掲載およびテレビ・ラジオ出演等

なし

(2 ページ程度で作成してください)